

那覇市歴史博物館が所蔵する横内家資料の 錦絵について

～展覧会に際した資料整理からの報告～

大 城 さゆり

はじめに

2014年(平成26) 1月6日から3月12日まで、那覇市歴史博物館で「年の初めの錦絵展～琉球で見る江戸文化の華～」が開催された。那覇市歴史博物館には約300点の錦絵が所蔵されており、今回の展覧会では半数近い約140点の錦絵を展示した。錦絵は沖縄の美術工芸品ではないが、横内家から那覇市に寄贈された資料の中に含まれていたため、那覇市歴史博物館が錦絵資料を所蔵している。

横内家資料は、1993年(平成5)に東京在住の横内 襄^{じょう}氏から寄贈されたもので、沖縄関係の歴史資料や彦根藩関係文書、江戸時代の美術工芸品など計約2万3000点にもおよぶ資料群である。横内家は代々彦根藩主井伊家に仕える藩士の家系だったが、廃藩置県後には寄贈者の祖父にあたる横内家9代目の扶^{たすく}(1851～1924)が、1885年(明治18)から1913年(大正2年)までの28年間にわたって沖縄県庁に勤めた。庶務課、衛生課、学務課などを歴任し、特に第4代県令奈良原繁の県政では、知事官房で秘書係兼文書係を務めていた。そのため、横内家資料には『沖縄県首里旧城図』や明治期の地図、行政関係の文書などの重要な沖縄関係資料が数多くある。

扶は書画や陶磁器を蒐集していたため、横内家資料には約3000点の美術工芸資料がある。県指定有形文化財の呉師虔^{ごしげん}(山口宗季)作『神猫図』など、沖縄の近世・近代の代表的な資料が含まれているため、沖縄の美術工芸史上、重要な資料群となっている。その他、明治三筆の一人、日下部鳴鶴^{めいかく}の書や、円山応挙の絵画、湖東焼など本土の美術工芸品もある。錦絵もそうした沖縄関連でない資料だったがためにこれまで展示する機会がなく、寄贈から20年を経て初めて展覧会が開催されるに至った。本論では、展覧会開催に際して改めて資料を整理したことで見えてきた横内家の錦絵の特徴を報告する。

1 伊礼孝・島尻克美「貴重な横内家資料、那覇市に寄贈される」(『那覇市史だより』43号、1994年)を参照した。

1 錦絵の制作年代および制作者

横内家の錦絵資料は299点あるが²、残念ながら錦絵の来歴についてはよく分かっておらず、蒐集者やどこでいつ入手したものであるかは未詳である。

横内家の錦絵で最も古い資料と思われるのは大石真虎³の『田字楼所蔵模写於夕霧之古画』と菊川英山⁴『風俗十錦手』で、いずれも江戸後期の作と思われ、絵師の没年や活躍期から推測して1830年頃までに摺られたものと考えている。ただし1830年代までの作はこの2点のみあり、これを除くと横内家の錦絵は主に1850年～1900年頃(幕末から明治30年代)のものが集められている。幕末のものでは1850年から1868年に制作されたものが蒐集され、その後13年間ほど間があいて、1881年(明治14)以降のものから再び蒐集されている(「【資料】横内家資料錦絵 一覧表」を参照)。

制作年代(発行年)が分かっている資料の中で最も新しいものは、1899年(明治32)12月の楊洲周延⁵『流行美人 浅草公園水族館』で、最も古いと推測される資料から考えると錦絵の制作年には少なくとも70年程度の幅がある。

横内家資料の錦絵は特に、明治20年から30年頃にかけて制作されたものが中心的に集められており、蒐集時期が制作年と同時期であると仮定すると、横内扶が沖縄に赴任していた時期と重なっている。

錦絵の作者は、幕末・明治の歌川派絵師が多く、特に明治期に活躍した楊洲周延(ちかのぶ)が最も多い136点となっている。幕末の錦絵では54点のシリーズ物が蒐集されている二代歌川国貞⁶が点数としては多く、他には名所絵で有名な二代歌川広重⁷などの作がある。明治期の絵師では、楊斎延一⁸や東洲勝月⁹といった江戸時代の浮世絵の画風を残す絵師の他に、繊細な色使いをする小林清親¹⁰、尾形月耕¹¹などの作がある。清親は西洋画のように写實的に風景を描く「光線画」¹²という新奇な表現で知られる絵師だが、横内家資料の

2 目録上の点数は301点となっているが包み紙2点を含んだ数字であるため、本論では包み紙を除いた299点とした。また、千代紙も錦絵資料に分類されている。

3 大石真虎(1792～1833) 葛飾北斎などの門人で、江戸後期の復古大和絵派の絵師。尾張国名古屋の人。作画期は1818年から没年までの約15年間。

4 菊川英山(1787～1867) 江戸後期の浮世絵師で菊川派の祖。歌麿風の美人画で売れっ子となったが、文政期(1818～1830)に入ると国貞らの美人画が人気になったため売れず、晩年は画壇を退いたと言われている。

5 楊洲周延(1838～1912) 歌川国芳、国周について絵を学んだと言われる明治期の絵師。役者絵や戦争画などを制作し、鹿鳴館のドレス姿の女性など世相を映した作品が有名である。その他大奥女中などの美人画でも人気を博した。

6 二代歌川国貞(1823～1880) 後に四代歌川豊国を名乗る江戸後期の浮世絵師。幕末から明治初期にかけて源氏絵を多く手掛けた。

7 二代歌川広重(1826～1869) 初代歌川広重の門人で、師の画風を忠実に継承した名所絵を手掛けている。

8 楊斎延一(1872～1944) 楊洲周延の門人。日清戦争や日露戦争など戦争物を描いて名を上げた。

9 東洲勝月(生没年不詳) 浅草に住んでいた明治期の絵師。明治20、30年代が作画期で、博覧会関係などの風俗画や戦争絵を描いている。

10 小林清親(1847～1915) 明治の広重とも称される絵師。「光線画」と称した風景画シリーズを出版した。

11 尾形月耕(1859～1920) 明治・大正の日本画家。明治期に戦争絵や源氏絵などの錦絵を描いた。

12 小林清親が始めた光と影を効果的に表した錦絵で、西洋画のように写實的に風景を描く。清親は1881年頃に光線画の制作を止めてしまうが、人気があったためその後も他の絵師によって新作が発表された。

中には光線画は含まれていない。

2 描かれている内容

錦絵には美人画、名所絵、役者絵、物語絵、子ども絵など様々なジャンルがある。そうした中で、横内家ではどのような内容の錦絵を好んで蒐集しているかを見ていきたい。

最も多いのが女性を描いた美人画である。周延の代表作の一つと位置づけられている、大奥を描いた江戸時代を懐古するような美人画が数点集められている(図1)。明治期に活躍した他の絵師の作を見ても、清親や月耕のもので江戸時代やそれ以前の時代を描いた懐古的な美人画が蒐集されている(図2)。

一方で明治の新しいファッションを描いた美人画もあり、新しい美人像を描いた周延の連作『真美人』は全36図すべてが揃っており(図3)、他にも『今様東京八景』といった明治期東京の新名所に女性を配した時事的なものがある。しかし、明治20年頃に盛んに題材となった鹿鳴館のドレス姿の女性を描いたものが一点もなく、横内家資料錦絵の中には洋装姿の女性像はない。また、戦争や当時の事件を描いたものも見られない。明治には西南戦争や日清戦争を描いた戦争絵が一大ジャンルとなり、特に日清戦争ものは1894～95年(明治27～28)に盛んに作られてブームとなっていたが、それらは横内家資料の蒐集年代と重なっているにも関わらず1点も無い。

横内家の錦絵の美人画には、合奏する女性達の姿を描いた続絵が6組あり¹³、その中には和楽器合奏と当時流行していた明清楽を演奏するものがある(図4)。合奏する人々はいずれも女性だけで、今回の展覧会では「明治ガールズバンド」と題して1コーナーを設けている。

その他に女性を描いたものには、女性の礼式(作法)を図解した続絵が5組ある¹⁴。江戸時代から子供のために礼儀作法を図解した「しつけ絵」という錦絵はあったが、横内家が持っていたものはすべて明治期の女子向けのものである。礼式は明治14年頃から学校教育にも取り入れられ、「修身」の一部として教えられるようになり、裁縫やお辞儀の仕方、茶道なども良家の女性が身に着けるべき教養とされた¹⁵(図5)。

美人画以外のジャンルとしては、読本や歌舞伎、浄瑠璃などの一場面を描いた物語絵がある。幕末に制作された『源氏かるた』シリーズ(図6)は横内家の錦絵の中で最も点数が多く蒐集されたシリーズもので、江戸後期に読まれていた源氏物語のパロディ本『^{にせ}修紫田舎源氏』¹⁶を題材とした幕末の「源氏絵」の一つである。源氏物語の帖数にちなんで全54

13 3枚続絵のため、点数としては合計18点

14 3枚続絵のため、点数としては合計15点

15 『平成24年度筑波大学附属図書館特別展(図書館情報大学・筑波大学統合10周年記念) 明治時代に礼法はいかにして伝えられたかー出版メディアを中心にー』筑波大学附属図書館、2012年、10頁。

16 柳亭種彦作の長編で、歌川国貞が挿絵を描き人気を博した源氏物語のパロディ本。源氏物語を元に舞台を室町時代としたお家騒動話。1829年から14年間にわたって38編まで刊行され、各編一万余部以上売れた大ベストセラーだったが、天保の改革で発禁になり未完。

図があるが、残念ながら横内家資料では1点のみ欠けている。その他に横内家資料の錦絵に見られるジャンルとしては、江戸の風俗を題材としたものや役者絵などがある。また、明治の錦絵としてイメージされるような洋風建築を描いた開化絵は、築地ホテル¹⁷を題材としたものが2組(3枚続絵)¹⁸見られるのみである。

また上記以外のジャンルとしては、子ども向けの錦絵が数点見られる。宮川春汀¹⁹の『小供風俗』(図7)は子ども達が遊ぶ姿を描いた子ども絵のシリーズだが、横内家では女兒の遊びを描いたものが集められており、他の絵師による子ども絵でも少女を描いたものが蒐集されている。さらに、子供向けの資料としては17点の千代紙がある(図8)。こうした横内家資料の錦絵の内容を考慮すると、女性や女兒を対象としたものが集められている傾向があるように思える。

3 横内家の錦絵内容から推測されること

横内家の錦絵がいつどこで購入された物であるか、その来歴は詳しく分かっていないが、明治20年から30年頃に発行された錦絵が中心的に蒐集されている。中でも特に楊洲周延の作が多く、ジャンルとしては美人画が多い。そしてこの時期の横内家資料の錦絵で特徴的なのは、礼式など女性の教養を表した錦絵があることだ。礼式を図解した錦絵は、発行年と蒐集時期が同年であると仮定すれば、1890年(明治23)から蒐集され、1893年(明治26)に特にまとまって集められているものである。

横内扶の妻^{よし}のために入手された可能性もあるが、ここでは扶の長女^{まき}巻が1892年(明治25)に、次女の夏^{なつ}が1896年(明治29)に生まれていることに注目したい。巻が生まれた翌年に礼式ものの錦絵が複数購入され、夏が生まれた年には『小供風俗』や『あつま』といった子ども絵のシリーズが集められている。さらに、女兒向けの子どもの絵ばかりであることや千代紙が十数点あることを考えると、この時期の錦絵が娘達のために購入されたものである可能性が高いように思われる。

また、大奥などの江戸時代以前の女性を描いた物や、和装女性の錦絵を集めていることから、沖縄で暮らす家族に日本の風俗や文化を知らせる土産として入手された可能性もある。集められた錦絵の内容から、横内家の錦絵は家庭内でプライベートに楽しむために購入したものではないかと考えており、横内家がいかに美術工芸品に親しんでいたかを知らせる興味深い資料である。

これらの錦絵を誰が蒐集していたかということも、詳しくは分かっていない。明治期の錦絵の蒐集時期は横内扶の赴任時期と重なっており、扶が出張先などで土産として買い求

17 1868年(明治元)に開業した、外国人向けのホテル兼貿易所で、設計をアメリカ人の技師リチャード・ブリジェンス、施工を清水組(現清水建設)が担当した。明治初期の洋風建築の代表的な存在だったが、明治5年の銀座大火により焼失した。

18 三枚続絵が2組あるが、三枚揃っていない資料があるため、点数としては4点。

19 宮川春汀(1873～1914) 明治期の絵師で富岡永洗の門人。柔らかいタッチが特徴的で子ども絵をよく描いた。文人と交流が深く、巖谷小波主催の「木曜会」に参加していた。

めた物である可能性がある。ただし、1851年(嘉永4)生まれの扶が蒐集したものとは考え難い資料もあることから、必ずしも蒐集者が扶であるとは限らず、扶の母である松月院が集めて孫娘たちに贈ったものだった可能性もある。女性好みの錦絵も数多いことから、女性が蒐集していたとしても不思議でなく、さらに松月院は布細工の一種である押絵を嗜んでおり、彼女もまた美術工芸への関心が高かったと考えられている。また、蒐集時期が70年以上に渡るとするならば、扶、松月院を含めた複数の人物が集めたものである可能性もある。いずれにしても来歴については推測の域を出ないが、膨大な横内家資料の中から蒐集の経緯が明らかとなる資料が見つかることを期待している。

おわりに

展覧会準備のための資料整理作業を行った所感として、横内家資料の錦絵は描かれた内容から家庭内で女性が楽しんだものであるように思われる。特に絢爛な色使いが特徴的な周延の作が愛好されている。そして資料の発行年代を見ると、横内扶の娘たちが生まれた頃から子ども向けの錦絵や女子教育に使える礼式ものが集められていることが分かった。こうした傾向から、この時期の錦絵は扶の娘、巻や夏のために集められたものではないかと考えている。このような錦絵資料の内容は、横内家でどのように錦絵が蒐集され愛好されたかを知る手がかりになっており、また当時の人々が錦絵をどのように鑑賞し、楽しんでいたかを垣間見ることができる興味深い内容となっている。

制作年が横内家が沖縄で生活していた時期に当たる資料もあり、どこで入手していたかは不詳であるが、扶の子ども達が沖縄で錦絵を楽しむことができたと考えると一層この資料が魅力的であるように感じられる。

2014年の「年の初めの錦絵展～琉球で見る江戸文化の華～」では、展示コーナーを「江戸の町とひと」、「紫式部源氏かるた」、「新時代の美女たち」、「明治のハイカラスポット」、「明治ガールズバンド～楽器を楽しむ女性たち～」、「こどもの風景～いろいろなあそび～」の6つに分け、横内家資料錦絵の約半数を展示した。礼式関係の錦絵など残念ながら展示できなかった資料もあるが、来年度に残りの半数の資料を公開し、横内家資料錦絵の魅力を再び展示・紹介する予定となっている。

図版



図1 楊洲周延『千代田大奥御花見』1894年(明治27)



図2 尾形月耕『美人花競 葛の花』
1896~99年(明治29~32)頃



図3 楊洲周延『真美人 十四』
1897(明治30)



図4 東州勝月『女人合奏之図』1889年(明治22)

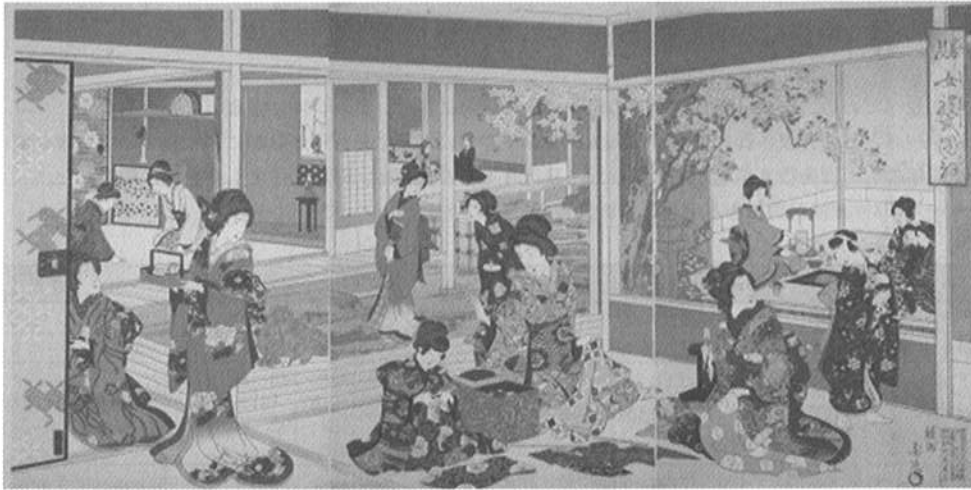


図5 楊洲周延『婦女礼式図解』1890年(明治23)



図6
二代歌川国貞
『紫式部源氏かるた
夕がを 四』
1857年(安政4)



図7
宮川春汀
『小供風俗 おしりの用心』
1896年(明治29)

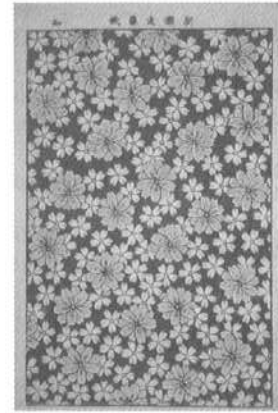


図8 『千代紙新撰友染紙』

【資料】横内家資料錦絵 一覧表

- ・発行年順に並べている。なお、発行年未詳の資料は表の最後に付け、カッコ内に推定年代を記した
- ・同一のシリーズとして発表された資料は、点数が分かりやすいように発行年が数年にわたっていても表を統一した。
- ・発行年が同年のものは発行月が早い順に並べた。発行月不明の資料は、同年の中でも順を後に表記した。
- ・同一シリーズの3枚続絵が数組ある場合、資料番号を一組ずつスラッシュで区切っている。

発行年	作者	名称	点数	資料番号	備考
1850年(嘉永3)	歌川芳員	播州須磨寺若木桜制札図	1	錦絵-224	3枚続絵のうち1枚
1851年(嘉永4)頃	歌川国芳	見たて五行 水 うきふね	3	錦絵-164、173、268	3枚続絵
1857年(安政4)	二代 歌川国貞	紫式部源氏かるた	54	錦絵-122～132、152 ～161、181～186、 189～192、197～ 218、295	全54図中53図あり、目録 1点
1858年(安政5)頃	二代 歌川国貞	げんじ今様絵巻 わかむらさき	1	錦絵-165	3枚続絵のうち1枚
1861年(文久元)頃	歌川豊国	名妓三十六佳撰	1	錦絵-261	
1863年(文久3)	二代 歌川広重	源頼朝公京都上洛之図 東海 道吉田駅豊川之長橋	3	錦絵-262～264	3枚続絵
1868年(慶応4)頃	三代 歌川広重か	東都築地ホテル館之図	1	錦絵-220	3枚続絵のうち1枚
1868年(明治元)	二代 歌川国輝	東都築地保呂留館海岸庭前之 図	3	錦絵-221～223	3枚続絵
1881年(明治14)	豊原国周	潤色三十六花撰	10	錦絵-098～107	
	楊洲周延	高貴茶之湯之図	3	錦絵-172、187、188	3枚続絵
1884年(明治17)	歌川国周	現時五十四情 第6号	1	錦絵-162	
1884～86年(明治17～ 18)	楊洲周延	雪月花	9	錦絵-036、084、 085、087、113、 114、115、168、169	
1886年(明治19)	楊洲周延	牛若丸浄瑠璃姫之館忍図	1	錦絵-180	3枚続絵のうち1枚
	楊洲周延	東錦昼夜競	1	錦絵-267	
1888年(明治21)	楊洲周延	旧曆五節句之図	2	錦絵-044、091	3枚続絵のうち2枚
	梅堂国政	役者絵(市川団十郎図)	2	錦絵-089、151	2枚続絵
	楊洲周延	今様東京八景	2	錦絵-176、178	
	楊洲周延	佳人音曲之図	3	錦絵-002、006、021	3枚続絵
1889年(明治22)	小林清親	教導立志基	1	錦絵-047	
	東洲勝月	女人合奏之図	3	錦絵-051、134、177	3枚続絵
	楊洲周延	富家之別荘	3	錦絵-008、009、066	3枚続絵
	楊洲周延	江戸風俗 十二月月	5(2組)	錦絵-013、057、266 /108、133	3枚続絵2組(3枚続の内1 枚欠け、点数5)
	楊洲周延	月松の三曲	3	錦絵-040、109、112	3枚続絵
	楊洲周延	日野資俊卿雪夜 篠塚母子に 逢ふ図	3	錦絵-020、022、273	3枚続絵
	東洲勝月	美人画 椿 於七	1	錦絵-052	
	楊洲周延	東風俗福つくし	4	錦絵-068、069、 078、089	
1890年(明治23)	楊洲周延	婦女礼式図解	5	錦絵-007、028、 093(ダブリ041、 092)	3枚続絵 ダブリ2点あり
	楊洲周延	二十四孝見立画合 王祥	1	錦絵-086	
	楊齋延一	雪月花	6(2組)	錦絵-014、035、276 /048、050、138	3枚続絵2組
	楊洲周延	幻灯写心競 寄席	1	錦絵-166	
	楊齋延一	佳人遊園之月見	3	錦絵-061、167、170	3枚続絵
1891(明治24)	楊洲周延	初春小女の戯	3	錦絵-097、110、 116、	3枚続絵
	尾形月耕	婦人風俗画	2	錦絵-072、075	
	三代 歌川国貞か	本朝廿四孝	2	錦絵-193、196	2枚続絵
	楊齋延一	美人梅園遊覧之図	3	錦絵-062、143、144	3枚続絵

1891年(明治24)頃	楊洲周延	女礼式略図	3	錦絵-023、025、026	3枚続絵
1892年(明治25)	楊洲周延	倭風俗 不忍池畔の朝露	3	錦絵-060、065、117	3枚続絵
	楊洲周延	あつま鑑 橋供養	1	錦絵-032	
1892~93年(明治25~26)	水野年方	三十六佳撰 夕陽	4	錦絵-120、299~301	
1892年~95年(明治25~28)	尾形月耕	日本花図絵	2	錦絵-017、074	
1892~96年(明治25~29)	尾形月耕	月耕随筆	2	錦絵-073、137	
1893(明治26年)	未詳	千代紙 しんばんうえき尽し	1	錦絵-294	
	楊洲周延	女礼式之内 茶之湯活花	3	錦絵-031、058、059	3枚続絵
	楊洲周延	女礼式ノ図	3	錦絵-045、141、142	3枚続絵
	三代歌川国貞	役者絵(山口定雄図)	3	錦絵-016、067、090	3枚続絵
	楊洲周延	初夏の園	2	錦絵-029、030	3枚続絵のうち2枚
	楊洲周延	梅間名月	3	錦絵-027、063、064	3枚続絵
	東洲勝月	教育女礼式の図	3	錦絵-043、046、053	3枚続絵
1894~96年(明治27~29)	楊洲周延	千代田の大奥	10(4組)	錦絵-012、140、274 /082、174、275/ 024、033、034/175	3枚続絵4組(3枚続中2枚欠け、10点)
1895年(明治28)	小林清親	四季の遊び	3	錦絵-011、038、083	3枚続絵
	楊洲周延	徳川時代貴婦人之図	6(2組)	錦絵-001、039、042 /005、088、111	3枚続絵2組あり
1896年(明治29)	尾形月耕	美人花競	4	錦絵-037、076、077、119	037、119は制作年未詳、96~99年頃か
	春汀逸人	小供風俗	5	錦絵-018、070、071、145、146、	
	未詳	女人図	1	錦絵-118	
	楊洲周延	あつま	3	錦絵-004、019、179	179は同名別シリーズの1枚である可能性あり
1897年(明治30)	楊洲周延	千代田之御表 御流レ	3	錦絵-054~056	3枚続絵
	宮川春汀	有喜世之華	1	錦絵-148	
1897~98年(明治30~31)	楊洲周延	真美人	36	錦絵-171、225~259	シリーズ全図揃い
1899年(明治32)	宮川春汀	当世風俗通 三曲合奏	3	錦絵-015、147、179	3枚続絵
	楊洲周延	流行美人 浅草公園水族館	2	錦絵-080、081	3枚続絵のうち2枚
発行年未詳の資料					
制作年未詳(江戸後期)	大石真虎	田字楼所蔵模写於夕霧之古画	1	錦絵-277	
制作年未詳(江戸後期)	菊川英山	風俗十錦手	1	錦絵-278	
制作年未詳(幕末)	歌川国芳	武蔵国調布の玉川	3	錦絵-269~271	3枚続絵
制作年未詳(幕末・安政頃)	歌川芳員	義経鞍馬山図	1	錦絵-260	3枚続絵のうち1枚
制作年未詳(幕末・明治)	歌川芳員か	(異国人絵)	1	錦絵-219	続絵のうち1枚
制作年未詳(明治)	未詳	(薄雲、若太夫図)	1	錦絵-163	
制作年未詳(明治)	半山画	(明治堂絵)	1	錦絵-121	
制作年未詳(明治)	楊洲周延	江の嶋まふでの図	1	錦絵-010	3枚続絵のうちの1枚
制作年未詳(明治)	楊洲周延	西園雅集	3	錦絵-003、096、139	
制作年未詳(明治)	楊齋延一	月夜美人清楽之図	3	錦絵-049、094、095	3枚続絵
制作年未詳(明治)	楊洲周延	雪月花の内雪	2	錦絵-135、136	3枚続絵のうちの2枚
制作年未詳(明治)	楊洲周延	義経千本桜	3	錦絵-150、194、195	3枚続絵
制作年未詳(明治)	未詳	千代紙	16	錦絵-279~293、296	
制作年未詳(明治)	未詳	(鶴の図)	1	錦絵-297	便箋か
制作年未詳(明治)	未詳	(雪の道中の図)	1	錦絵-298	便箋か

